

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591200013		
法人名	大平有限会社		
事業所名	もみの木グループホーム		
所在地	柳井市中央1-8-1		
自己評価作成日	平成30年12月25日	評価結果市町受理日	令和元年5月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成31年1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護される側、介護する側ではなく、入居者と介護スタッフがお互いに支え合って生きていくという理念【共に生きる。友に生きる】を柱として、プロ意識を持ち、大きな家族を支える集団として団結し、アットホームで笑顔の絶えない生活空間を目指し、サービスを提供しています。 一人一人を大切にして思いを汲み取り寄り添う介護をするように努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食事は、副食は法人厨房からの配食を利用されていますが、ご飯や汁物は事業所でつくられています。月に2～3回は、ユニット毎で利用者と職員でメニューを考えた郷土料理やサンドイッチ、焼きそば、お好み焼き、たこ焼きなどの昼食づくり、恵方巻きや押しずし、栗ごはん、おはぎなどの季節のテーマや利用者の希望にそった食事づくりを利用者と職員が一緒にされています。米を研ぐ、野菜を切るなどの下ごしらえ、味見、盛り付け、テーブル拭き、お盆拭き、配膳、お茶くみ、下膳、食器洗いなど、利用者はできることを職員と一緒にされ、食事の時は、箸立てから自分で好みの箸を選ぶ、下膳が困難な利用者には、職員がテーブルを移動して皿やコップなど仕訳でき、利用者に会った下膳ができるように工夫しておられます。月1回の外食、誕生日に合わせての外食、アイスクリーム、和菓子、ケーキを食べに喫茶店へ出かけるなど、担当職員が利用者の規模いうを聞いて個別に支援されています。利用者が活躍できる場面づくりや楽しみごとの支援にも積極的に取り組まれ、毎朝の新聞の取り込み、テレビの視聴、新聞や週刊誌、絵本を読む、季節の飾りつけなどの作品づくり、体操、ボール遊びやゲーム、トランプ、かるた、習字、ちぎり絵、はり絵、ぬり絵、折り紙、言葉遊び、ことわざ遊び、パズル、脳トレ、縫い物、新聞でごみ箱づくり、年賀状や暑中見舞いを書く、洗濯物干しや洗濯物たたみ、モップかけ、食事の竜台、プランターや畑での野菜づくり、水やり、草取り、収穫、外出支援など、利用者一人ひとりの希望や思いに添って暮らしに生きがいや喜びがある日々が過ごせるよう支援されるなど、事業所の理念「共に生きる 友に生きる」にそって、利用者一人ひとりの思いや意向を大事にした支援に努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)		1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月1回のスタッフミーティングで、折に触れ確認し合っている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業者独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。毎日の業務の前に理念を読み、ミーティングで確認し共有して実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	柳井地域のお祭りやイベントに参加し、協力している	自治会に加入し、職員が総会と地域の清掃に参加している。利用者は、散歩や買い物、喫茶店に外出した時は地域の方と挨拶を交わしている。地域の祭り(金魚提灯まつり、天神まつり)や近くのパン屋やコンビニに出かけた時に地域の方と挨拶を交わし交流をしている。中学生の職場体験や高校生のインターシップの受け入れ、併設のデイサービスセンターのボランティア(笑いヨガ、三味線、フラダンス、手品、小学生の獅子舞、高校生のブラスバンドなど)と交流している他、移動パン屋の利用や隣接しているサービス付き高齢者住宅の住民との交流があるなど、日常的に交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の集まりに参加し、話をするようにしている		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	意義を理解し、取り組んでいる	ミーティングで外部評価の意義について説明し、自己評価のための書類を、項目を分けて職員全員に配布し、記入されたものを管理者がまとめteiru。まとめたものを全員での確認し意見を聞くまでには至っていない。	・全職員による自己評価への取り組み

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告し意見を活かしている	会議は年6回開催し、理湯お社の状況や活動報告、ヒヤリハット・事故報告、避難訓練の報告、研修報告、外部評価の報告等をして、意見交換をしている。会議は、市担当者、自治会長、民生委員、家族が参加しているが、地域の特性を活かしたメンバーの参加拡大を目標に警察署や商工会、小学校などの参加の模索をしたが、酸化を得るまでには至らなかった。参加メンバーから勉強会をしたいとの意向を受けて、DVD視聴、利用者の下肢筋力低下防止の為に体操の回数を増やすなど、意見をサービスの向上に活かしている。	・地域メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から相談できる協力関係を築いている	市担当者とは、運営推進会議で情報交換をしている他、電話や直接出向いて相談や助言を得るなど、協力関係を築くように努めている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の指針を作成し、委員会を中心に、職員とも話し合いをし、拘束しないケアに取り組んでいる	「身体拘束に関する指針」を作成し、身体拘束・虐待防止委員会を中心に、毎月のミーティングや年2回勉強会で身体拘束について学び理解している。玄関は施錠していない。利用者が外に出かけたいときは職員が一緒の出かけている。利用者が閉塞感を持たないように配慮している。年1回身体拘束について全職員にアンケートを実施し、自己評価を行っている。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を中心に職員研修を行い防止に努めている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で職員に学ぶ機会を持ち、活用できるよう支援する出来る様にしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解と納得がえられるように努めている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や相談を気軽に言ってもらえる関係を築いている。また、第三者医院や苦情先を明記している	相談・苦情の受付体制や処理手続きを定め、第三者委員、外部機関を明示し、契約時に家族に説明をしている。運営推進会議時、電話、面会時に家族からの意見や要望を聞いている。運営推進会議への出席は全家族に案内し、出欠届の余白に意見記入欄を設けている。利用者を担当している職員が家族通信で近況を報告したり、面会時に利用者の状況を詳しく伝え、家族の意見が出るように工夫している。玄関に意見箱を設置している。個別のケアに対する要望はその都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見や提案を聞いて反映している	毎月のミーティング時や年1回の個人面談で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。委員会(レク、衛生、身体拘束)時や、日々の業務の中で聞いている。勤務体制の変更や床のワックスがけ、車いすの購入の要望など、職員の意見や提案を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員数の不足により、外部研修に行くことは難しくなっているが、職員の希望がある時は、三か出来るような体制は整えている。内部での勉強会はきちんと行うようにしている。	外部研修は職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供し、実践者研修、ケアマネ研修に参加している。受講後は研修報告を作成し、全職員に回覧し、勉強会で報告をしている。内部研修は年間計画に沿って月1回行い、社会人としてのマナー、食中毒、応急手当、緊急時の対応などをテーマに実施している。研修の前に、研修内容についての課題が出て、各自で調べて記入してから勉強会を行い、より深く学べるように取り組んでいる。新人研修は日常業務の中で先輩職員について学んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は研修等を通して交流が出来ているが、職員は難しいのが現状。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴、家族からの情報をもとに、関係作りに努めている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にしっかり家族の話を聞く時間を取り、関係作りに努めている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努める様にしている		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築いている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との協力関係を大切にしている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで住んでいた家に行ったり、近所の小さな祭に参加し、なじみの人と触れ合えるように努めている。	家族の面会や親戚の人、友人、知人、教え子、自宅近所の人々の来訪がある他、年賀状や暑中見舞いでの交流を支援している。馴染みの美容院の利用、馴染みの店での買い物、寺参り、地元の祭りの見物、自宅周辺のドライブ、家族の協力を得て、外出や外泊、墓参り、法事の参加を支援し、馴染みの関係が継続できるように取り組んでいる。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考えながら、支え合えるよう支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の把握に努め、異常がある場合は家族と相談し対応している	入居時には、本人や家族、担当していたケアマネから情報や事業所独自のアセスメントシートを活用して思いや意向を把握している他、日常の関わりの中で利用者の言葉や様子、職員の気づきをホーム日誌に記入して利用者の思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族から話を聞き職員間で話し合って本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現上の把握に努めている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回ケアカンファレンスを行い意見やアイデアを反映している	利用者の思いや家族の意向、主治医や看護師の意見を聞き、担当している職員がモニタリングを行い、担当職員、計画作成担当者を中心に全職員でカンファレンスを実施して、介護計画を作成している。6ヵ月毎に見直し、利用者の状態に変化があった時はその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ホーム日誌・バイタル表・受診記録等で情報を共有している		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に対応している		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は本人と家族の希望を大切にして、適切な医療が受けられるようにしている	本人や家族が希望する医療機関をかかりつけ医とし、事業所で受診を支援している。総合病院への受診は家族の協力を得ている。皮膚科や眼科などの他科受診も事業所で支援し、面会時や電話で家族に受診結果を報告している。歯科は希望に応じて往診がある他、協力医療機関からは月1階の訪問診療がある。夜間や緊急時は看護師に連絡をして指示を仰ぎ、かかりつけ医や協力医療機関と連携して、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適切な受診や看護が受けられるように支援している		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報を交換し、病院関係者との関係を作るようにしている		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末ケアの指針を定め取り組んでいる	「重度化した場合の事業所の指針」に沿って、契約時に事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、「重度化した場合における(看取り)指針」に基づき、改めて家族の意向を聞き、「看取り介護の同意書」により確認して、主治医や看護師と話し合い、医亮機関や他施設への移設も含めてチームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故対応のマニュアルがあり、ミーティング等で初期対応の方法などを話し合っている	事例が発生した時には、その場にいた職員が、ひいえりハット・事故報告書に記録し、その日勤務している職員で対応策を話し合い、申し送りや記録の回覧で共有している。月1回のミーティングで再検討して一人ひとりの事故防止に努めている。医療機器メーカーからAEDの取り扱い、看護師を講師に勉強会(王と、感染症、発熱、誤嚥、夜間君給仕)で事故防止について学び、週1回看護師による健康管理時など、日常業務の中で指導を受けているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための 応急手当や初期対応の定期的訓練 の継続

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防避難訓練を行っている。(今年度は地震・津波訓練も行った)	消防署の協力を得て、年2回、昼夜を想定した火災時の避難訓練を実施している。訓練は、通報、誘導、避難、消火訓練を実施し、避難場所の確認をして、職員は、利用者が避難できる方法を身につけている。年1回は津波・地震を想定した市の防災訓練で避難場所(事務所4階)への避難訓練を実施している。避難訓練に地域からの参加は得られていないが、緊急連絡網に地域の人2名が入り、協力体制は築いている。事業所として、飲料水や食料の備蓄もしている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応している	プライバシー保護、個人情報保護について内部研修で学び、ミーティングで周知徹底し、職員は正しく理解している。利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になる言動や対応については管理者が指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人のペースに合わせる様にしている		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめるように支援している	副食は法人厨房からの配食で、ご飯と汁物は事業所でつくっている。月1回はユニット毎でメニューを考えた昼食づくり(郷土料理、サンドイッチ、焼きそば、お好み焼き、恵方巻き、押しずし栗ごはん、おはぎなど)を利用者と一緒にしている。利用者は、米を研ぐ、野菜を切るなど下ごしらえ、味見、盛り付け、テーブル拭き、お盆拭き、配膳、お茶くみ、下膳、食器洗いなどを職員と一緒にしている。食事の時は、箸立てから自分の好みの箸を選び、下膳が困難な利用者には職員が、テーブルを移動して皿やコップなどの仕分けができるなど、利用者の気持ちを大事にした支援をしている。利用者と職員は、同じテーブルで同じものを一緒に食べて食事を楽しめるように工夫している。誕生ケーキの飾り付け、おやつづくり(ホットケーキ、たこ焼き)、月1回の外食(回転ずし、うどん、ラーメンなど)、誕生日に合わせての外食や喫茶(アイスクリーム、和菓子、ケーキなど)、利用者の担当職員が利用者の希望を聞いての個別支援、家族と一緒にの外食など、食事が楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人口腔ケアを行っている		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人1人に応じて支援している	ホーム日誌に記録して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行い、トイレでの排泄ができるように自立に向けて支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬管理を適切に行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々に応じた入浴の支援をするように努力している	毎日13時30分から16時を入浴時間とし、利用者の希望や体調に合わせて、清拭、シャワー浴、足浴の支援をしている。入浴をしたくない利用者には、再度の声かけなどタイミングを見ながら入浴ができるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人に応じて対応している		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理を適切に行っている		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別レクをおこない一人一人の気分転換の支援をしている	毎朝の新聞の取り込み、テレビ視聴(歌番組、録画した番組)新聞や週刊誌、絵本を読む、季節の飾り付けづくり、口腔体操、ラジオ体操、首や指の部分体操、手足の体操、ボール遊び、魚釣りゲーム、トランプ、カルタ、習字、ちぎり絵、貼り絵、ぬり絵、折り紙、紙工作、言葉遊び、ことわざ遊び、パズル、脳トレ(漢字、計算、迷路)雑巾縫い、新聞紙でごみ箱づくり、手づくりカレンダーの色塗り、年賀状や暑中見舞いを書く、洗濯物干し、洗濯物たたみ、モップかけ、掃除、テーブル拭き、下ごしらえ、配膳、下膳、お茶くみ、プランターで野菜づくり(水やり、草取り、収穫)季節の行事(節分、節句、花見、敬老会、誕生会)利用者の希望に沿った個別レクなど、一人ひとりが張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食や外出に行ける様に支援している	ベランダや外庭での外気浴、近隣の散歩や買い物、ドライブ(公園、道の駅、火力発電所など)、季節の花見(梅、桜、紫陽花、ばら、紅葉)月1階の外食、利用者の希望に合わせての個別の外出支援、家族の協力を得て、外出、外食、墓参り、法事の参加、利用者の希望に合わせて外出ができるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が行っているが、買い物ときは、自分で支払いをし、お釣りを受け取ったりしてもらっている		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事由に出来る様に支援している		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごせる様に工夫するようにしている	玄関ホールには季節の花や飾りつけがしてある。リビングには、畳のコーナーやソファがあり、利用者が思い思いの場所でくつろげる空間となっている。壁面には利用者と一緒につくった季節の作品が飾ってある。台所からは食事をつくる音や匂いがして生活感がある。部屋の温度、湿度、換気に配慮し居心地良く過ごせるようにしている。リビングからベランダに出て、市街の景色や遠くの山並みを眺める事が出来、外気に触れ日光浴の場となっている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫している		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地良く過ごせる様工夫している	ベッド、布団類、カーテン、整理ダンス、収納ボックス、衣装ラック、時計、姿見、椅子、ごみ箱、テレビ、仏壇、ぬいぐるみ、化粧品など利用者が使い慣れたものが持ち込まれている。家族の写真、カレンダー、本人が書いた習字やぬり絵を飾り、利用者が安心して居心地よく過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を送れるように工夫している		

2. 目標達成計画

事業所名 もみの木グループホーム

作成日： 令和 1 年 5 月 24 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4(3)	自己評価への取り組みが職員全員の確認、意見を聞くまでに至っていない。	全職員による自己評価への取り組み	勉強会・ミーティングで時間をかけながら職員に自己評価及び外部評価を実施する意義を理解してもらい、2019年度は職員の意見を聞きながら自己評価をおこなう。	12ヶ月
2	5(4)	運営推進会議における地域メンバーの拡大	年1回の参加でも良いので、新たな地域メンバーの拡大を図る	地元の老人会・ボランティア等において、新たな地域メンバーを獲得できるようにしていく	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。